



テヌータ・タンブルニンの歴史は1700年代後半に遡ります。イタリア北部ピエモンテ州バツソ・モンフェッラート・アスティジャーノに、「聖人とワインの地」として名高いカステル・ヌオーヴォ・ドン・ボスコに20ヘクタールの土地を所有しています。
ワイナリーの名前は、進撃する兵士たちを鼓舞する時に鳴らされたサヴォイア家の進軍太鼓(イタリア語で「タンブーリ **tamburi**」)に由来し、創業者であるジュゼッペ・クレリコ士官により名付けられました。



20ヘクタールの土地に9つのワイン畑、2つのヘーゼルナッツ畑、牧草地と森を所有しているテヌータ・タンブルニンの入り口は、長い年月を経たアカシアの堂々とした長い並木道になっています。かつては、剪定されたアカシアの枝はワイン畑の台木やワイナリーの建物の暖房用に利用されていました。

このような素晴らしい場所にワイナリーの建物と歴史ある貯蔵庫があり、私たちは歴史的な自然景観を保護する役割も担っております。



2004年夏より、エレナ、ヴァレリア、クラウディア・ガイダーノ姉妹により所有されています。姉妹の父であるピエルジョルジョとヴァレリアは、エノログのジャンピエロ・ジェルビ、ジャンフランコ・コルデロと農学士ジャンルカ・ラヴィツァのコンサルタントを受け、ワイナリー経営を全面的に担当しています



標高約300mにある互いに接した9つのワイン畑は、赤みがかった粘土鉄質土壌の上であり、ワイナリーの建物を囲んでいる畑の景観は見事な古代ローマ円形劇場のようであります。



テヌータ・タンブルニンのワインは、地域の伝統品種であるフレイザ、マルヴァジア、ポナルダ、バルベラ、ネッビオーロから作られます。栽培方法はグイヨで仕立てられ、6～7芽ほど残されます。収穫は手作業で行なわれます。

いくつかの畑は樹齢40年以上になり、そのほか近年に植樹されたものとなっています。最適な農法により、低収穫で高品質のブドウ作りをしております。テヌータ・タンブルニンでは、農産物の安全性や企業活動の環境への影響を配慮し、必要最低限の畑への関わりで栽培活動が行われています。

クリスタルのように透明な水が湧き出す水源がワイナリーの敷地内にあり、生産活動に必要な水を供給しています。



小さなワイナリーですが、ワイン作りのほか、宿泊施設付きアグリツーリズムや各種イベントができるロケーションも備えており、豊かなホスピタリティでお客様をお迎えしております。